

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 2月18日提出

所 属	職 名	氏 名
スポーツ健康科学部	教授	渡 邊 彰
研 究 題 目	体育学習における「態度」に対する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>○本研究の目的 2008年に小学校及び中学校学習指導要領が、2009年に高等学校学習指導要領が改訂された。今回の体育科・保健体育科の改訂は、「発達段階における指導内容の明確化」に重点を置き、「技能」はもとより「態度」「知識、思考・判断」においても改善が行われている。</p> <p>しかし、「態度」や「思考・判断」においては小学校と中学校・高等学校との学習指導要領の記載が大きく異なり、的確な発達段階を踏まえた記述になっているかという危惧がある。そのようなことから、これらについて基礎データを収集し、新たな「発達段階に応じた指導内容」を提案できればと考える。</p> <p>○本研究の取組 2013年度は、主に「愛好的態度」について、小学校から高等学校までの学習指導要領の記述内容を整理した。 2014年度は、「公正に関する態度」を中心に整理した。 2015年度は、保健をはじめとする他教科の表記の仕方を調べ、比較検討を行った。運動に対する愛好的態度については、教科の多くが中学・高校の体育の表現ではなく、小学校体育と同様の考え方で作成されていることが分かった。</p> <p><参考> ○小学校体育の愛好的態度の表記 = 当該学年の学習内容 + 進んで取り組む ※学年があがるにつれて高まる「学習内容」に対して、「進んで取り組む」と言うことは変わらない。</p> <p>○中学・高校体育の愛好的態度の表記 中1・中2 = 当該学年の学習内容 + 積極的に取り組む 中3・高1 = 当該学年の学習内容 + 自主的に取り組む 高2・高3 = 当該学年の学習内容 + 主体的に取り組む</p>	